

令和6年度第1回松阪地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和6年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 松阪地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 【資料1】 令和5年度第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・・・・・ P 3
- 【資料2】 松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況・・・・・・・・ P 5
- 【資料3】 松阪地域の中学校卒業者進路先の推移・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7
- 【資料4】 令和6年度の協議について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
- 【資料5】 松阪地域中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）・・・・・・・・ P 9
- 【資料6】 松阪地域の中学校卒業者数と県立高等学校入学定員の推移と予測・・・・ P 10
- 【資料7】 松阪地域の県立高等学校（全日制）の設置学科と学級数の推移・・・・ P 11
- 【資料8】 松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の
学科・コースについて（令和7年度）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12
- 【資料9】 松阪地域の県立高校卒業生（全日制）の進路状況（令和6年3月卒）・・・・ P 13
- 【資料10】 松阪地域の県立高等学校の特色（各学校より）・・・・・・・・ P 14
- 【資料11】 令和21年度までの松阪地域の
県立高等学校（全日制）の総学級数について・・・・・・・・ P 22
- 【資料12】 松阪地域の県立高等学校における
学びと配置のあり方に係る協議・・・・・・・・・・・・・・・・ P 23
- 【資料13】 地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査の実施について・・・・ P 28

令和6年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No		所属及び名前	新・継
1	学識経験者	三重大学 地域イノベーション学研究科 准教授 水木 千春	継続
2	地域有識者	松阪商工会議所 事務局次長 井村 彰	継続
3		多気町商工会 事務局長 堀江 勝昭	継続
4		大台町商工会 事務局長 上岡 万紀子	新
5	市町教育委員会教育長	松阪市教育委員会 教育長 中田 雅喜	継続
6		多気町教育委員会 教育長 小林 真一	継続
7		明和町教育委員会 教育長 下村 良次	継続
8		大台町教育委員会 教育長 福岡 佳久	新
9	県立高等学校長代表	県立松阪高等学校 校長 井ノ口 誠充	新
10	小中学校長代表	松阪市立鎌田中学校 校長 村田 佳之	新
11	小中学校PTA代表	松阪市PTA連合会 代表 水谷 大地	新
12		多気郡PTA連合会 代表 柴田 由貴	新
13	高等学校PTA代表	松阪地区高等学校PTA連合会 代表 清水 竜也	継続
14	小中学校教職員代表	松阪市立東部中学校 教諭 山際 健太郎	継続
15	高等学校教職員代表	県立松阪商業高等学校 教諭 川合 正宏	新

松阪地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、松阪地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、松阪地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の松阪地域全体における県立高等学校の在り方に関する事
- (2) 松阪地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- (3) 施設・設備に関する事
- (4) その他検討を要する事

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は令和5年 1月18日から施行する。

令和 5 年度第 2 回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和 6 年 2 月 1 9 日（月） 1 8 時 3 0 分から 2 0 時 4 0 分まで

2 場所 県松阪庁舎 大会議室

3 概要

令和 4 年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する 1 5 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、松阪地域で令和 1 1 年度までに想定される学級減への対応の方向性を協議していくにあたり、今後の当地域における高校の学びと配置のあり方について協議しました。また、地域の中学生とその保護者を対象としたアンケート調査の内容や実施方法等について検討しました。

主な意見は次のとおりです。

<主な意見>

（松阪地域の中学生の進路状況について）

- 松阪地域には多様な学科がバランスよく配置されているにもかかわらず、中学校卒業者の約 3 分の 1 が他地域の全日制高校へ進学している。その要因を分析し、各高校・学科の魅力を高め、それを発信することができれば、地元の高校へ進学する生徒の割合も増えるのではないかと。
- 多様な選択肢があったとしても、現実的な合格可能性、交通の利便性や通学費用などを考えて、隣接地域の高校を選択する生徒も多い。
- 学校以外の習い事でできた友人と同じ学校に行きたいという理由で、他地域の高校へ進学する生徒も一定数いるようだ。保護者としても、子どもが希望するならば高校段階では地域を越えて交流させてやりたいという思いがあるのではないかと。
- 松阪地域の高校卒業者の約 6 割が大学、短大、専門学校等へ進学していることや、自分が純粋に行きたい高校を記入していると思われる中学校 3 年生の 7 月段階の進路希望状況を勘案すると、松阪地域では普通科の定員が不足しており、その結果として私立高校や他地域の高校へ進学しているのではないかと。
- 大学等に進学するならば普通科でなければというのではなく、専門学科から大学等へ進学する生徒も多いことを、中学生にしっかりと周知していく必要がある。

（今後の松阪地域の県立高校における学びと配置のあり方について）

- 他地域の高校や県外の大学へ進学したとしても、将来この地域を愛し、この地域に戻ってきたいと思ってもらえるよう、小中高をとおり地域に根差した学びを大切にしたい。
- 求人を出してもなかなか応募がないという現状があり、地域における人材育成の視点に加え、労働条件を含めた魅力ある職場づくりも必要であると感じている。
- 中学生に、なぜ大学へ進学するのかを考えさせたり、地元の高校から地域の企業に就職することのよさを伝えたりしていく必要がある。小中高が連携して、こうした人生設計につながるキャリア教育に取り組むことが大切である。

- 中学生向けの進路説明会では、大学合格実績や就職先だけではなく、小規模校で独自に行っている特色ある教育や、どのような学びができるのかをもっとアピールするべきである。
- 目標に向かって粘り強く取り組む力や、他者と協働する力などの非認知能力を育成することが大切になっており、そういった学びの実現には一定の学校規模があるほうが望ましい。
- 一般に小規模校に存在するとされているメリットは、「体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる」といったものを除いて、概ね大規模校にも存在している。一方で、学級減による教員数の減少は、教科指導や部活動など学校運営全体に大きな影響を与えることとなる。
- 専門学科の学びの選択肢を維持するために、近年は主に普通科の定員を減じてきたが、これ以上松阪地域の県立高校の普通科の定員を減らすべきではない。普通科と専門学科・総合学科のバランス、公立と私立のバランスをしっかりとりながら、慎重に議論を進めてもらいたい。
- いつ頃までに、当協議会としての方向性をとりまとめる必要があるのか。
⇒（事務局）松阪地域では、令和11年度に大きな中学校卒業生数の減少が見込まれているので、統合を含めた再編を検討するのであれば、中学生の進路選択への影響等を勘案すると、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性を取りまとめる必要がある。

（アンケートの質問内容や実施方法について）

- 地域間比較ができるよう共通設問を設けるとともに、地域の実情に応じて各協議会独自の設問を設けるという方針には賛成である。集計結果から、当地域における学びと配置のあり方の方向性をどのように導くのかを想定しながら、アンケートを作成してもらいたい。
- アンケートの設問は過去や県外の調査を参考に作成したとのことだが、現行の学習指導要領がめざす学びの姿をふまえた表現に見直すべきではないか。
- 伊勢志摩地域で実施したアンケートの「将来、どこで生活したり働いたりしたいか（させたいか）」の設問は、ぜひ当地域でも入れてほしい。
- まだ高校のことを十分に知らない中学校2年生を対象とすると、漠然とした回答しかできないのではないか。また、中学生の保護者からは、通学費や授業料以外にかかる費用など経済的負担に関する質問が多いので、こうした悩みに関する設問があってもよいのではないか。
- 中学生とその保護者に加え、高校生も調査対象とし、実際に高校で学んで感じた意見も参考としてはどうか。
- 保護者対象の調査形態について、他地域では紙媒体で実施したとのことだが、中学校によっては、保護者の要望もふまえて電子メール等の活用が進んでいるので、オンラインによる実施も検討してはどうか。

松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学希望者の状況（令和6年度・現高1）

資料2①

学校名	学科・コース	入学定員	R5.12時点の進学希望者数		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	進学希望者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数		
松 阪	普通	200	▲64	136	-	-	-	200	167	0.84	200	200	-	-	201	0	
	理数	80	112	192	40	4.78	40	40	115	2.88	40	40	-	-	81	0	
	学校計	280	48	328	40	4.78	40	40	282	1.18	240	240	-	-	282	0	
松阪工業	機械	40	8	48	20	2.40	22	18	20	1.11	18	18	-	-	39	▲1	
	電気工学	40	8	48	20	2.45	22	18	24	1.33	18	18	-	-	40	0	
	工業化学	40	▲9	31	20	1.55	22	18	15	0.83	18	18	-	-	40	0	
	繊維デザイン	40	3	43	40	1.08	40	-	-	-	-	40	40	-	40	0	
松阪商業	自動車	40	7	47	20	2.30	22	18	19	1.06	18	18	-	-	40	0	
	学校計	200	17	217	120	1.81	128	72	78	1.08	72	72	-	-	199	▲1	
	総合ビジネス科	120	11	131	60	2.13	66	54	60	1.11	54	54	-	-	121	0	
飯 南	国際ビジネス科	40	▲3	37	20	1.85	22	18	16	0.89	18	18	-	-	40	0	
	学校計	160	8	168	80	2.06	88	72	76	1.06	72	72	-	-	161	0	
	総合学科	80	▲17	63	40	1.30	55	25	21	0.84	21	4	6	4	80	0	
相 可	学校計	80	▲17	63	40	1.30	55	25	21	0.84	21	4	6	4	80	0	
	普通	80	9	89	24	3.46	27	53	59	1.11	53	-	-	-	80	0	
	生産経済	40	▲1	39	20	1.85	22	18	15	0.83	17	1	0	0	39	▲1	
	環境創造	40	▲9	31	20	1.50	22	18	9	0.50	10	8	2	2	34	▲6	
昴学園	食物調理	40	4	44	40	1.10	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0	
	学校計	200	3	203	104	1.87	111	89	83	0.93	80	9	2	2	193	▲7	
	総合学科	80	▲33	47	80	0.93	73	-	-	-	-	7	1	1	74	▲6	
松阪地域（全日制）計	学校計	80	▲33	47	80	0.93	73	-	-	-	-	7	1	1	74	▲6	
	計	1,000	26	1,026	464	1.92	495	498	540	1.08	485	20	9	7	989	▲14	

※入学者数と合格者の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため
 ※「R5.12時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況（令和5年度・現高2）

資料2②

学校名	学科・コース	入学定員	R4.12時点の進学希望者数		前期選抜等			後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	進学希望者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数		
松 阪	普通	240	205 ▲ 35	-	40	217	5.43	41	240	189	0.79	240	-	-	241	0
	理数	80	216 136	40	217	5.43	41	39	155	3.97	39	-	-	80	0	
	学校計	320	421 101	40	217	5.43	41	279	344	1.23	279	-	-	321	0	
松阪工業	機械	40	49 9	20	47	2.35	22	18	19	1.06	18	-	-	40	0	
	電気工学	40	48 8	20	45	2.25	22	18	21	1.17	18	-	-	40	0	
	工業化学	40	24 ▲ 16	20	27	1.35	22	18	13	0.72	16	2	1	39 ▲ 1		
	繊維デザイン	40	59 19	40	59	1.48	40	-	-	-	-	-	-	40	0	
	自動車	40	56 16	20	53	2.65	22	18	19	1.06	18	-	-	40	0	
	学校計	200	236 36	120	231	1.93	128	72	72	1.00	70	2	1	199 ▲ 1		
松阪商業	総合ビジネス科	120	112 ▲ 8	60	110	1.83	66	54	54	1.00	53	1	1	121	0	
	国際ビジネス科	40	25 ▲ 15	20	24	1.20	22	18	9	0.50	9	9	3	34 ▲ 6		
	学校計	160	137 ▲ 23	80	134	1.68	88	72	63	0.88	62	10	4	155 ▲ 6		
飯 南	総合学科	80	53 ▲ 27	40	41	1.03	53	27	14	0.52	14	13	3	70 ▲ 10		
	学校計	80	53 ▲ 27	40	54	1.03	53	27	14	0.52	14	13	3	70 ▲ 10		
相 可	普通	80	78 ▲ 2	24	77	3.21	27	53	53	1.00	53	-	-	80	0	
	生産経済	40	53 13	20	52	2.60	22	18	25	1.39	18	-	-	41	0	
	環境創造	40	43 3	20	42	2.10	22	18	18	1.00	18	-	-	40	0	
	食物調理	40	52 12	40	52	1.30	40	-	-	-	-	-	-	40	0	
	学校計	200	226 26	104	223	2.14	111	89	96	1.08	89	-	-	201	0	
昴学園	総合学科	80	47 ▲ 33	80	90	1.13	80	-	-	-	-	-	-	80	0	
	学校計	80	47 ▲ 33	80	90	1.13	80	-	-	-	-	-	-	80	0	
松阪地域（全日制）計		1,040	1,120 80	464	936	2.02	501	539	589	1.09	514	25	8	1,026 ▲ 17		

※入学者数と合格者の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

※「R4.12時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

松阪地域の中学校卒業生進路先の推移

資料 3

(1)松阪地域(1市3町)の状況

市町	卒業年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立・ 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
1 市 3 町 の 合 計	5年度 (R6.3卒)	1,856	207	151	104	80	130	14	686	307	307	993	140	264	219	42	665	198	1,856
	4年度 (R5.3卒)	1,934	239	150	107	68	135	17	716	354	354	1,070	168	235	231	46	680	184	1,934
	3年度 (R4.3卒)	1,844	209	137	104	79	125	22	676	362	362	1,038	155	241	213	39	648	158	1,844

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高専への進学者数

※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

(2)市町別の状況

	卒業年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)									地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立・ 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計								
松 阪 市	5年度 (R6.3卒)	1,467	170	127	81	66	83	2	529	280	280	809	62	241	151	36	490	168	1,467
	4年度 (R5.3卒)	1,457	179	127	77	57	84	6	530	290	290	820	73	223	149	35	480	157	1,457
	3年度 (R4.3卒)	1,386	156	114	73	63	70	4	480	309	309	789	65	225	143	30	463	134	1,386
多 気 町	5年度 (R6.3卒)	148	16	9	4	14	34	3	80	13	13	93	19	5	14	5	43	12	148
	4年度 (R5.3卒)	199	22	5	18	11	37	2	95	28	28	123	25	2	29	7	63	13	199
	3年度 (R4.3卒)	183	18	4	16	16	37	2	93	21	21	114	24	7	22	6	59	10	183
明 和 町	5年度 (R6.3卒)	191	15	12	12	0	4	1	44	10	10	54	54	17	48	1	120	17	191
	4年度 (R5.3卒)	218	28	13	8	0	4	1	54	24	24	78	67	10	48	2	127	13	218
	3年度 (R4.3卒)	195	22	13	13	0	6	1	55	20	20	75	59	8	39	3	109	11	195
大 台 町	5年度 (R6.3卒)	50	6	3	7	0	9	8	33	4	4	37	5	1	6	0	12	1	50
	4年度 (R5.3卒)	60	10	5	4	0	10	8	37	12	12	49	3	0	5	2	10	1	60
	3年度 (R4.3卒)	80	13	6	2	0	12	15	48	12	12	60	7	1	9	0	17	3	80

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高専への進学者数

※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

令和6年度の協議について

1 はじめに

少子化の進行とともに、予測困難なほど社会情勢が大きく変化する中、子どもたちを取り巻く教育的課題はより複雑化・多様化し、さらにコロナ禍を経て学校のあり方や教育そのものの意義も問われています。このような状況の中、これからの時代を生きていく高校生に育みたい力や、本県の県立高等学校で進めていく教育など、これからの三重の県立高校の教育のあり方を示す「県立高等学校活性化計画（令和4年3月）」【別冊資料】を策定しました。

松阪地域では、「県立高等学校活性化計画」に基づき、令和4年度に当協議会を設置し、県立高等学校の学びと配置のあり方についての検討を進めてきました。

2 協議の進め方

当協議会においては、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、松阪地域における県立高等学校の学びと配置のあり方について、具体的な対応もあわせて検討を進めます。その中で1学年3学級以下の県立高等学校については統合についての協議も行います。こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めていきます。

今年度の協議会では、令和5年度の協議会に引き続き、地域の県立高等学校を取り巻く状況や現状、今後の地域の少子化の進行、他地域の協議会での協議内容等の情報を共有するとともに、今年度実施予定の地域の中学生・保護者へのアンケート結果をふまえ、15年先を見据えた協議を進めます。

なお、令和11年度までに当地域の1学年あたりの総学級数が、今年度の25学級から5学級程度減少することが見込まれることから、松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について協議します。

3 今後の協議会開催スケジュール

- (1) 第1回協議会（本日7月22日）
 - ・松阪地域の高等学校を取り巻く状況について
 - ・これからの松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について①
 - ・アンケートの内容と実施について
- (2) 第2回協議会（令和6年11月頃）
 - ・アンケートの結果について
 - ・これからの松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について②
 - ・令和4～6年度の協議の小まとめ（案）について
- (3) 第3回協議会（令和7年2月頃）
 - ・これからの松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について③
 - ・令和4～6年度の協議の小まとめについて

松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

		R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3
		卒業	卒業	卒業	卒業	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
松阪市	卒業生数	1,390	1,386	1,457	1,467	1,444	1,399	1,440	1,335	1,239	1,208	1,254	1,219	1,103
	前年度対比		-4	71	10	-23	-45	41	-105	-96	-31	46	-35	-116
	R6.3対比					-23	-68	-27	-132	-228	-259	-213	-248	-364
多気郡	卒業生数	411	458	477	389	435	426	363	419	347	403	372	385	387
	前年度対比		47	19	-88	46	-9	-63	56	-72	56	-31	13	2
	R6.3対比					46	37	-26	30	-42	14	-17	-4	-2
小計	卒業生数	1,801	1,844	1,934	1,856	1,879	1,825	1,803	1,754	1,586	1,611	1,626	1,604	1,490
	前年度対比		43	90	-78	23	-54	-22	-49	-168	25	15	-22	-114
	R6.3対比					23	-31	-53	-102	-270	-245	-230	-252	-366
県内合計	卒業生数	15,777	16,244	16,055	15,890	15,712	15,488	15,241	14,769	14,404	14,000	14,049	13,442	12,792
	前年度対比		467	-189	-165	-178	-224	-247	-472	-365	-404	49	-607	-650
	R6.3対比					-178	-402	-649	-1,121	-1,486	-1,890	-1,841	-2,448	-3,098

令和6年5月1日 教育政策課調べ

【県立高校（全日制）】

松阪地域	入学定員 (学級数)	1,000 (25)	1,000 (25)	1,040 (26)	1,000 (25)	1,000 (25)
	欠員数※	29	30	17	14	-
県内合計	入学定員 (学級数)	10,760 (271)	10,880 (274)	10,640 (268)	10,440 (262)	10,240 (257)
	欠員数※	325	334	342	225	-

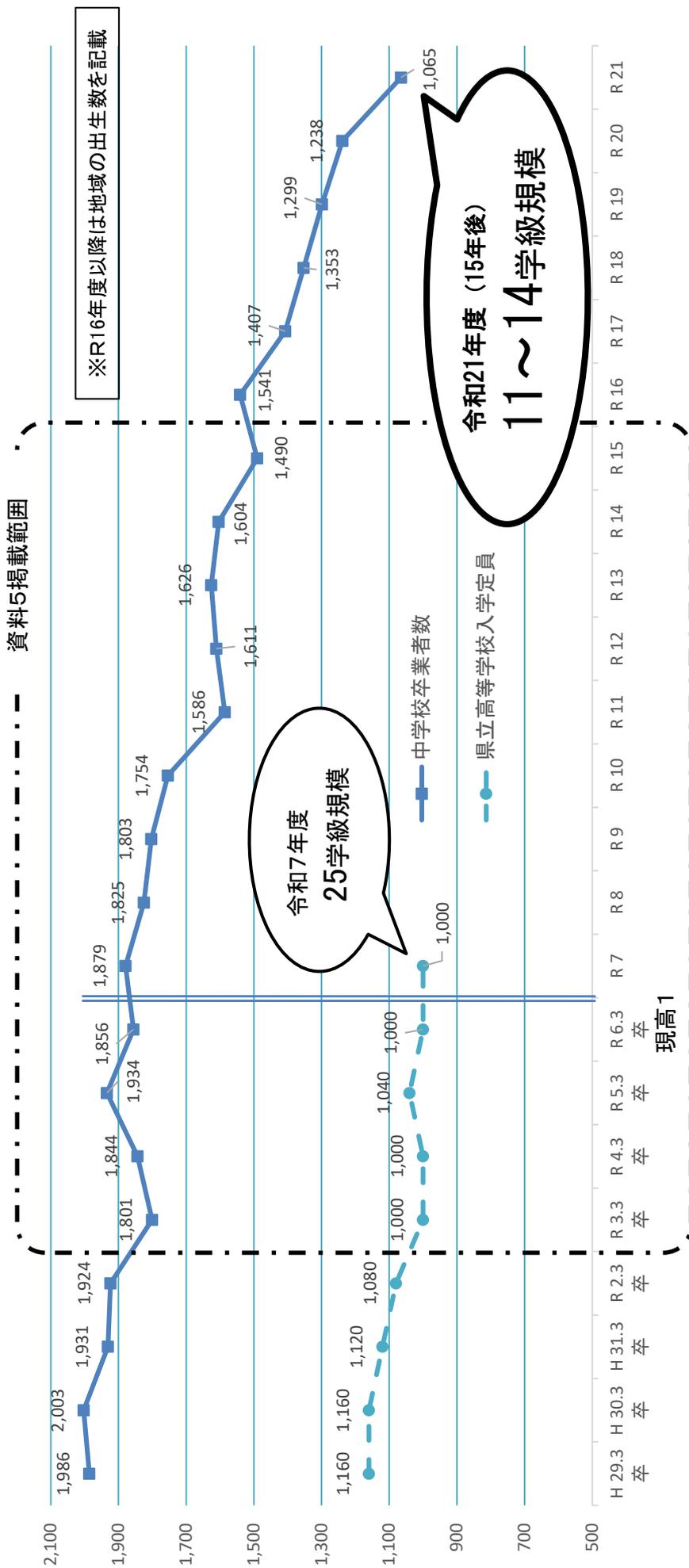
※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

【私立高校（全日制）】

三重	入学定員	530	540	535	530	530
	入学者数	548	584	563	468	-

松阪地域の中学校卒業者と県立高等学校入学定員の推移と予測

資料6



【松阪地域の出生数】

	H29年度 現小1	H30年度 5~6歳	R1年度 4~5歳	R2年度 3~4歳	R3年度 2~3歳	R4年度 1~2歳	R5年度 0~1歳
松阪市	1,159	1,225	1,115	1,089	1,018	979	856
多気郡	323	316	292	264	281	259	209
合計	1,482	1,541	1,407	1,353	1,299	1,238	1,065

松阪地域の県立高等学校(全日制)の設置学科と学級数の推移

資料7

学校名	学科名	学級数																																						
		元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4	5	6	7		
松阪	普通	8	8	8	9	9	9	9	9	9	10	10	9	8	8	8	8	8	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5			
	理 理数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	家 家政																																							
	家 被服																																							
	生活科学	2	2	2	1	1	1	1	1																															
計	11	11	11	11	11	11	11	11	10	11	11	10	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	8	7	7	8	7	7	
松阪工業	機械	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1		
	工業化学	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	繊維工学	1	1																																					
	繊維デザイン			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	自動車	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	電気工学	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5
松阪商業	商業	7	5	4																																				
	国際経済				3	4	3	3	3	3	2	2	2	2																										
	国際情報	2	2	2	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3																										
	情報ビジネス																																							
	情報システム																																							
	総合ビジネス																																							
	国際ビジネス																																							
	計	9	9	8	7	9	8	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	
飯南	普通	3	3	3	3	3	3	3	3	3																														
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
相可	普通	4	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	農業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																												
	生産経済																																							
	農業土木	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	環境創造																																							
	家庭	2	2	2	1	1																																		
計	8	8	7	6	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
宮川 H22.4に相可と統合	普通	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																				
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2																				
昂学園 H7.4敦原より校名変更	普通	1	1	1	1	1																																		
	農業	1	1	1	1	1																																		
	総合技術						1																																	
	計	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
学級数の計	44	44	42	40	43	40	40	40	38	40	40	38	36	35	34	34	33	31	31	31	31	31	30	30	30	30	30	29	29	29	29	28	27	25	25	26	25	25		

普通科、専門学科、総合学科別の学級数の推移(松阪地域)

学科	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4	5	6	6		
普通科	19	19	18	19	20	18	18	18	18	19	16	15	14	14	14	14	13	12	12	12	12	10	10	10	10	10	9	9	9	9	8	8	7	7	8	7	7		
農業科	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
工業科	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	
商業科	7	7	6	5	7	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4	4	4	4	
家庭科	4	4	4	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
その他	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	
総合学科						2	2	2	2	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
学級数の計	44	44	42	40	43	40	40	40	38	40	40	38	36	35	34	34	33	31	31	31	31	31	30	30	30	30	29	29	29	29	28	27	25	25	26	25	25		

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和6年3月卒)

資料9

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪高校	普通 理数	250	2	7	1	14	274
		91.2%	0.7%	2.6%	0.4%	5.1%	100.0%
松阪工業高校	工業	26	15	19	129	1	190
		13.7%	7.9%	10.0%	67.9%	0.5%	100.0%
松阪商業高校	商業 国際	43	14	34	62	3	156
		27.6%	9.0%	21.8%	39.7%	1.9%	100.0%
飯南高校	総合	4	3	12	48	2	69
		5.8%	4.3%	17.4%	69.6%	2.9%	100.0%
相可高校	普通	32	12	28	4	1	77
		41.6%	15.6%	36.4%	5.2%	1.3%	100.0%
	農業 家庭	9	6	9	91	1	116
		7.8%	5.2%	7.8%	78.4%	0.9%	100.0%
昂学園高校	総合	11	2	12	20		45
		24.4%	4.4%	26.7%	44.4%	0.0%	100.0%

普通科計 (理数科含む)	282	14	35	5	15	351
	80.3%	4.0%	10.0%	1.4%	4.3%	100.0%
専門学科計	78	35	62	282	5	462
	16.9%	7.6%	13.4%	61.0%	1.1%	100.0%
総合学科計	15	5	24	68	2	114
	13.2%	4.4%	21.1%	59.6%	1.8%	100.0%
合計	375	54	121	355	22	927
	40.5%	5.8%	13.1%	38.3%	2.4%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大」は高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和5年3月卒)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪高校	普通 理数	294	4	2	1	18	319
		92.2%	1.3%	0.6%	0.3%	5.6%	100.0%
松阪工業高校	工業	21	16	31	155	1	224
		9.4%	7.1%	13.8%	69.2%	0.4%	100.0%
松阪商業高校	商業 国際	41	5	35	56	2	139
		29.5%	3.6%	25.2%	40.3%	1.4%	100.0%
飯南高校	総合	5	6	18	40	4	73
		6.8%	8.2%	24.7%	54.8%	5.5%	100.0%
相可高校	普通	34	4	22	7	0	67
		50.7%	6.0%	32.8%	10.4%	0.0%	100.0%
	農業 家庭	12	3	18	72	0	105
		11.4%	2.9%	17.1%	68.6%	0.0%	100.0%
昂学園高校	総合	8	5	13	21	0	47
		17.0%	10.6%	27.7%	44.7%	0.0%	100.0%

普通科計 (理数科含む)	328	8	24	8	18	386
	85.0%	2.1%	6.2%	2.1%	4.7%	100.0%
専門学科計	74	24	84	283	3	468
	15.8%	5.1%	17.9%	60.5%	0.6%	100.0%
総合学科計	13	11	31	61	4	120
	10.8%	9.2%	25.8%	50.8%	3.3%	100.0%
合計	415	43	139	352	25	974
	42.6%	4.4%	14.3%	36.1%	2.6%	100.0%

令和 6 年度 松阪高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○時代の変化に対応し社会に貢献できる人材を輩出する、地域から信頼される進学校

< 自主自律 >

校訓である「自主自律」の精神を持ち、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。

< 知・徳・体 >

校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、地域社会の中心的な担い手となる人を育てます。

< 高い志 >

心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。

2 学校の特色（理数科 2 学級 + 普通科 5 学級）

松阪市民から「南高(ナンコウ)」または「松高(マツコウ)」と呼ばれ、親しまれている歴史と伝統のある学校です。充実した学習指導と的確な進路指導のもとで自己実現に必要な力を養うことができ、「自主自律」の校訓のもと、学校行事や部活動にも一生懸命に取り組むことができる、文武両道の充実した学校です。

『松高力』で夢を現実に！！

【文部科学省 SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）指定校】

令和 3 年度から 5 年間、新たにⅢ期目の SSH の指定を受け、時代のニーズに対応した、「国際舞台で通用する課題探究能力育成プログラム」の開発を教育課程に位置付けて行っています。普通科・理数科の生徒全員を対象に「探究活動」を行い、生徒自らが設定したテーマをとことん追究する中で、一人ひとりが、高い志を持ち、さまざまな課題に対して自ら考え挑戦し、未来を切り拓くことができる力＝松高力を育成しています。新しい大学入試では「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」が求められており、本校では SSH での取組で探究する力を育成し、この力を各教科で生かすことで、新しい大学入試のありようにしっかりと対応しています。

【理数科】

学問をより深く追求するための創造力・探究心を養い、科学的思考力を持った人間性豊かな人材を育てます。そのために、より幅広く興味と関心を持ち、将来めざす学問について考える機会となるように、講演会や大学・研究施設の見学会、大学の研究室訪問を実施しています。土曜日は課外授業を実施しています。また、1・2 年生は夏休みに夏期研修があります。

【普通科】

基礎的な学習をとおして幅広い学力を獲得し、人間性豊かで知性溢れる人材を育てます。全学年にわたり、夏休みや放課後の課外学習などを充実させ、きめ細かい指導を行うことで学力の向上を図っています。多様な学びをベースにして、自己実現を的確に支援するキャリア教育により、夢に向かう目的意識とそれを実現する確かな学力を養います。また、希望者には土曜課外授業を実施しています。

令和6年度 松阪高校（通信制）の特色

1 めざす学校の姿

○生徒一人ひとりの学びを支援し、生徒・保護者・地域から信頼される通信制高校
 <自主自律>

校訓である「自主自律」の精神を持ち、自学自習をとおして、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。

<知・徳・体>

校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、それぞれの立場で地域社会に貢献できる人を育てます。

<高い志>

心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。

2 学校の特色（普通科）

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べます。

●松阪高校の通信制で学ぶ

Design Your Own Dream ～あなたの夢を描こう～

通信制ってどんなところ？

☆授業は月に2回の日曜日のスクーリングです。基本的には自宅で学習します。

☆自学自習でレポートを作成し、添削指導を受けます。自宅でも、仕事の合間でも、時間を見つけて自分のペースで学習できます。

☆学ぶ意欲さえあれば、年齢に関係なく誰でも学べます。世代を越えた仲間と交流することができ、新しい人間関係が生まれます。転入・編入や長期欠席、不登校経験のある方もがんばっています。

●松高通信の主な学校行事

学校行事等への積極的な参加を促して、学校生活の充実を図り、学習意欲の向上に結びつけています。遠足、体育祭、南伊勢地域でのフィールドワーク、生活体験発表会、定通交流スポーツ大会、卒業生を送る会などがあります。

令和6年度 松阪工業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 社会人として必要とされる人材となるために、挨拶をはじめとする基本的な生活習慣を身につけ、人権感覚豊かな人間性を磨く学校
- 専門学科における知識、技術の習得に意欲や向上心を持ち、技術者として通用する専門性を養うとともに、地域からの信頼に応える学校
- 文武両道に成果を示すことのできる生き生きとした学校

2 学校の特色（工業化学科、機械科、繊維デザイン科、自動車科、電気工学科 各1学級）

- 明治35（1902）年に工業学校として開校し、校舎の特徴から「赤壁（せきへき）」と呼ばれ多くの人に親しまれる、120年を越える歴史ある学校です。
- 「社会に必要とされる人間になれ」という創立当初からの校訓（「赤壁魂」）のもと、技術革新のめざましい産業界で常に活躍できる人材を地元のみならず全国に輩出しています。
- 学科別に専門性の高い学習を進め、3年生では課題研究や卒業制作に取り組みます。近年は、学科の枠を超えて、学びを統合した課題研究等にも挑戦しています。毎年、12月～1月にその学習成果を発表します。

（1）各科の特色

《工業化学科》 「素材」の視点から「ものづくり」に必要な化学的知識・スキルの学習とともに、「環境」問題の改善に関する知識・技能や思考力等についても学習します。危険物取扱者や毒物劇物取扱責任者などの資格も取得します。【中・南部学区唯一の学科】

《機械科》 「ものづくり」の基礎となる機械の設計・制作から、NC工作機械やロボットを中心とした各種自動化システムまで、広範囲な内容を学習します。二級ボイラー技士や各種三級技能士など現場で役立つ資格を取得します。

《繊維デザイン科》 デザインについて、「ものづくりの原点」「よりよい生活のための提案」という視点から幅広く学びます。卒業後は進学する生徒も多く、美術・芸術大学への進学もサポートします。業界や地域社会からデザイン依頼も多くあります。【県内唯一の学科】

《自動車科》 「一種自動車整備士養成施設」として国土交通省から指定を受けており、学科試験だけで三級自動車整備士（総合）の資格を取得することができます。溶接やパソコンなど自動車に関わる機械・電気系の資格も取得します。【中・南部学区唯一の学科】

《電気工学科》 電力の発生から輸送、応用技術や情報技術など幅広い電気・電子工学の分野を基礎から応用まで学習します。資格取得も積極的に行い、難関資格である「第3種電気主任技術者」の合格者数は全国1位となっており、近年はその資格を利用し国立大学へも進学しています。

（2）部活動

県の強化指定を受けているバレーボール部をはじめ弓道部やレスリング部など全国レベルの運動部、工業高校ならではのロボット部やソーラーカー部、工業化学研究部など生徒の興味関心に応える27の部が活躍しています。

令和6年度 松阪工業高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

多様な教育的ニーズに対応する教育活動を行い、地域とともにある学校

【グラデュエーション・ポリシー】

- 社会を生きるために必要な知識と技能を身につけようと学び続ける生徒
- 多様性を理解し、他者を思いやり、協働することができる生徒
- 相手の立場を尊重し、コミュニケーション力を備えた生徒

2 学校の特色（普通科1学級）

本校の名称は工業高校となっていますが、定時制課程には工業学科は設置されておらず、普通科として教育課程を編成しています。

【カリキュラム・ポリシー】

- 個に応じた指導の充実により、基礎学力の向上と主体的に学びに向かう態度を身につけさせる教育活動を推進する。
- 多文化共生の学習と日本での生活期間の短い生徒が社会で将来活躍できる学習活動の充実を図る。
- 発達段階に応じたキャリア教育の推進し、コミュニケーション能力と進路選択に対する意識を高め、幅広い視野と自立できる力の育成を図る。

- (1) 働きながら学べる夜間定時制として昭和23（1948）年に設置され、多くの卒業生が社会で活躍しています。
- (2) 17時30分から20時55分（月曜日は21時30分）までの1日4限授業です。
- (3) 普通科単位制で、3年次と4年次では興味関心に応じて科目選択ができます。
- (4) 4年間での卒業を基本としていますが、通信制との併修により3年間で卒業することもできます。
- (5) コミュニケーション能力の向上、職業選択能力や、勤労観・職業観を持つことができるよう、発達段階に応じたキャリア教育を推進しています。
- (6) 授業以外の時間で補習を行うなど個に応じた支援を行い、四年制大学に進学する生徒もいます。
- (7) 生徒の半数以上が外国につながる生徒です。国籍の異なる生徒が、お互いを認め合い、協力しながら一緒に学んでいます。
- (8) 外国人生徒支援員の配置や取り出し授業の実施など、日本語能力を高めるきめ細かな指導を行っています。
- (9) 「学びなおし」等に対応するため個別指導の充実・基礎学力の定着を重視し、主体的に学びに向かう態度を身につけるよう取り組んでいます。

令和6年度 松阪商業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

生徒・教職員が「誇り」をもち、保護者・地域から「信頼」される学校

2 学校の特色（総合ビジネス科3学級＋国際ビジネス科1学級）

- 起業家マインドを持ち、課題に気づき、解決に向けて自ら考え、自発的に働きかける行動力で、卒業後の次のステージでも活躍する生徒の育成をめざします。
- 「自己指導能力」と「気づく力、自分で考える力、行動する力、質問する力、表現して伝える力、ねばり強く取り組む力」の育成を、すべての教育活動でめざします。
- 単位制のため少人数講座も多く、きめ細かな教育活動を実施しています。
- 国際ビジネス科では外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜を実施し、必要な生徒には日本語指導も行っています。

3 学科の特徴

【国際ビジネス科】＝（商業＋情報＋英語）× 単位制

商業に関する知識・技術を習得し、グローバル社会での活躍をめざす商業学科簿記や情報処理の検定や国家試験とともに、英検対策講座を受講することで、実用英検の準2級～2級、それ以上のレベルにもチャレンジできます。1級合格生徒も。

【総合ビジネス科】＝（商業＋情報）× 単位制

商業に関する知識・技術を習得し、地域社会で活躍をめざす商業学科簿記や情報処理の検定や、より高度な国家試験にも挑戦できます。

4 特徴的な学び

- 探究学習 三菱みらい育成財団助成事業に採択されました。
松阪市や商工会議所、地域の企業と連携し、現代社会で生きる力をはぐくむ「ビジネス探究プログラム」を実践しています。
1年次：「ビジネス基礎」を探究の手法を用いて学びます。商業のおもしろさを実感しながら、ビジネスの基礎を身につけます。
2年次：半径5mの課題からビジネスプランの作成に挑戦することをとおして、ビジネス社会への問いをたてることを学びます。
3年次：「課題研究」では、自らの問いに基づいて、これまでの商業の学びを生かして探究し、課題解決をめざします。
- 情報教育 文部科学省DXハイスクールに採択されました。
生成AIやオープンデータの研究・活用などについて、外部機関とも連携しながら実践していきます。情報系の高度な国家試験合格も目指します。
- 国際交流
国際ビジネス科では、台湾の姉妹校とオンラインで交流しており、冬には台湾研修も予定しています。オーストラリア研修は隔年で実施しています。
- SBP活動（ソーシャルビジネスプロジェクト）に参加しています。

令和 6 年度 飯南高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 変化の大きい社会で、自分らしくたくましく「生きる力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成する学校
- 高校生が地域に関わり、地域とともに活動する学校

【育みたい生徒像】

- 学習、部活動、学校行事に積極的に取り組み、「生きる力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を身につけた生徒
- 地域と連携した活動に積極的に参加し、自分らしさを発揮して地域や周囲の人の役に立てることを自己の喜びと感じられる生徒

2 学校の特色（総合学科 2 学級）

◎飯南高校は昭和 23 年に誕生しました。

学校は櫛田川の上流、まわりを緑に囲まれたすばらしい環境の中にあります。杉の木が林立する「並木道」は飯南高校のシンボルです。平成 11 年に連携型中高一貫教育を導入するとともに、普通科から総合学科に改編しました。生徒が夢を育み、「好きなこと」を究め、未来を創ることをサポートします。

◎地域と協働し、探究的な学び、キャリア教育を推進しています。

「産業社会と人間（1 年次）」、「キャリアデザイン（2 年次）」、「いいなんゼミ（3 年次、総合的な探究の時間）」を軸に、各系列の学びを生かし、「地域を学び場とした探究活動」を充実させています。地域と連携したキャリア教育を通じて「生きる力」を育みます。

◎生徒一人ひとりを大切にします。

各年次とも 2 学級定員を 3 学級に編成し、少人数教育により、一人ひとりにきめ細かなサポートを行っています。また、総合学科の特色を生かし、70 あまりの講座を設けることにより、自分の興味・関心に合った学習ができるようになっていきます。さらに、地元の専門家や大学教授など、多くの特別講師が授業を担当しています。いろいろな分野のスペシャリストや地域の方々から学ぶことで、一人ひとりの個性をさらに伸ばすことをめざしています。

面談や声掛けを丁寧に行い、一人ひとりに寄り添います。

総合学科とは、「普通科」と「専門学科」のよいところを併せ持った学科です。

1 年次は基礎を幅広く学びながら将来について考え、2 年次から自分の学びたい系列に分かれて専門的に学んでいきます。郷土・環境、介護福祉、総合進学、コンピュータの 4 つの系列を用意し、多様なニーズに対応しています。高校に入ってから自分の将来をじっくり考え、専門的に学びたいという人にピッタリの学科です。決められた科目以外は、幅広い選択科目の中から自分で選んで、好きなことを学べるのが一番の特長です。飯南高校での 3 年間で、大きく成長できます。一人ひとりのチャレンジを丁寧にサポートします。

また、進学希望の生徒が主体的に学び、発展的な内容について学びのアドバイスを受けることができる「放課後学びの場（塾）」で、学力を向上させることをとおして、進路実現につなげます。

令和6年度 相可高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒の夢をかなえる学校
- 地域と共に歩む学校
- 教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校

2 学校の特色

（普通科2学級＋生産経済科1学級＋環境創造科1学級＋食物調理科1学級）

(1) 4つの学科

<普通科>

単位制、少人数講座、習熟度別授業を取り入れ、併設する専門学科とともに探究し刺激しあう、他校に類を見ない環境のもと、国公立・私立の大学、短期大学、専門学校への進学や就職など、さまざまな進路に対応しています。

<生産経済科>

農産物生産の基礎・基本とその流通、園芸福祉、環境問題を学び、地域農業をはじめとする、地域産業の発展を担う産業人の育成をめざします。

<環境創造科>

生活の基礎を支える「街づくり」と「国土安全」を基本としながら、人々が自然と共生していくための循環型社会の形成を目標に、新たな環境を創造していくことができる技術者を養成します。毎年、約85～90%の生徒が公務員として就職し、国の省庁や地方自治体で活躍しています。

<食物調理科>

調理師コースと製菓コースとがあり、校内での実習の他、国内外における研修やインターンシップなど、数々の経験を重ね、高い技術と意識を併せ持つことで、グローバル、グローバルな場で活躍できるプロフェッショナルをめざします。

(2) キャリア教育、探究学習の充実

- 相可高校では、「総合的な探究の時間」を「ドリーム・チャレンジング・タイム

（DCT）」と呼び、1年生は学年全員で学科を越えた少人数グループを作り、課題と向き合っ、考えたり調べたりして自分の意見を出し、また、他者の意見を聞くことで出てきた情報を整理し、グループでまとめた意見を発表します。4つの学科の生徒が入り混じっていることで、さまざまな価値観から学ぶことができ、視野が広がります。

探究学習は、各教科の学習の中でも進められますが、普通科では、2，3年生でも引き続き「DCT」を学習し、専門学科では、2年生以降、「課題研究」等の専門科目でそれぞれの学科に応じた専門性を追究し、グローバルやグローバルな活動をめざします。

- 通常、高校で出会う大人といえば、ほとんどが教員だと考えられますが、相可高校では、「DCT」学習時の外部講師をはじめ、各学科が連携する地域や企業の方々、出前講座で来校する大学教員、調理クラブの実習施設「まごの店」や製菓コースの販売実習のお客様、など、たくさんの大人と関わるすることができます。このように、学校中で生きたキャリア教育を日々実践しています。

令和 6 年度 昴学園高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 総合学科、全寮制等の特色を生かして以下の人材育成や学校づくりをめざしています。
 - ・卒業後に社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成
 - ・何事も誠実・意欲的に取り組み、思いやりを持って人と接することができる人材の育成
 - ・地域（ユネスコエコパークである「大台町」）との連携を深め、地域から信頼されるとともに、地域から必要とされる人材の育成

2 学校の特色（総合学科 2 学級）

(1) 総合学科（単位制、90 分授業、少人数制）

1 年次は共通の科目を履修し、自分の適性や進路について考えます。2 年次以降は 5 系列に分かれ、興味・関心のあることを学び、進路実現につなげます。

<国際交流系列>

データサイエンス等の学びを活かし大台町についての探究活動を深める中で、実践的な力を身につけた次世代の担い手となることをめざします。

<総合スポーツ系列>

生涯スポーツにつながるニュースポーツや野外活動等の理論・実践を通じて、知識と技術を身に付け、様々なスポーツの指導者等をめざします。

<美術工芸系列>

絵画・デザイン・立体造形等を基礎から学び、自分の表現の可能性を追求しながら、美術工芸で社会をより豊かにする力を身につけます。

<生活福祉系列>

福祉全般の知識・技能を学び、高齢者を含めた、誰もが住みやすい社会を創造することができる人材を育成します。

<環境技術系列>

野菜作り・木材加工・林業保全に関わる学習を行い、持続可能な資源とは何かを、校外学習や講師を交えながら学び、自発的な人材の育成をめざします。

(2) 生徒寮「きらら」

県内外各地から集まった同世代の若者が集団生活を行うことで、自主性・自律性・協調性などを育みながら個性と能力の伸長を図っています。

(3) 地域みらい留学&地域みらい留学 3 6 5 実施校

都道府県の枠を越えて、地域の学校に入学した生徒とともに、充実した高校 3 年間を送ることができます。

(4) 大台町（ユネスコエコパークに認定）との連携

地域とともにある開かれた学校づくりを進めています。

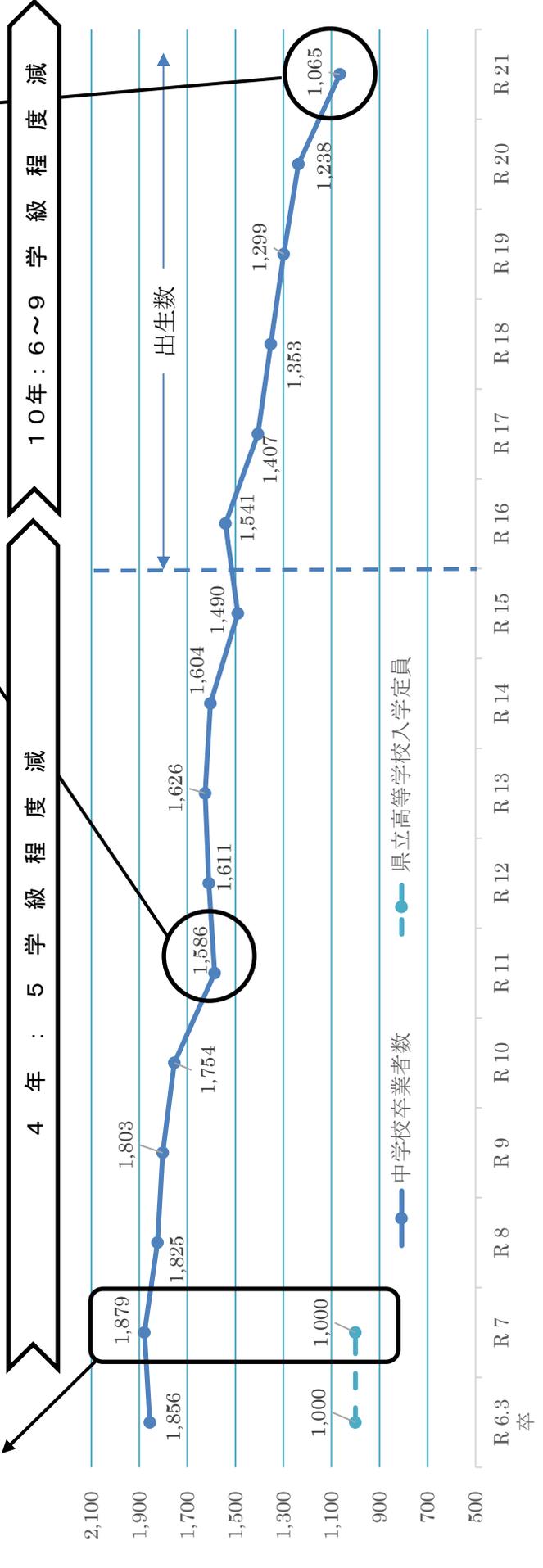
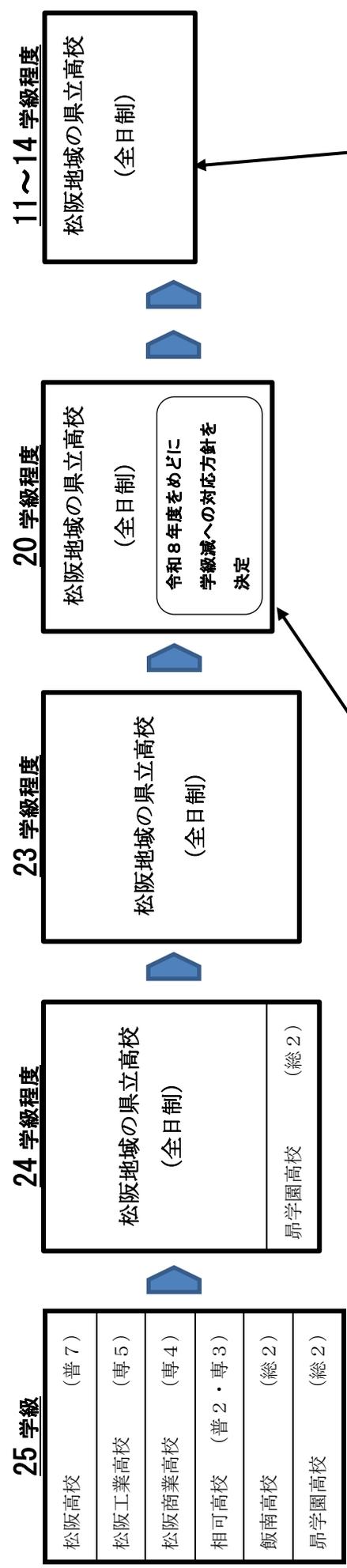
(5) 国際教育

韓国養正高等学校と姉妹提携をしており、授業でハングル語を学ぶこともでき、国際感覚を育てます。

昴学園高校は、「大台町」の豊かな自然のなかで、寮（全寮制、但し大台町・大紀町・多気町の生徒は自宅からの通学も可能）での集団生活と総合学科、少人数教育、さらには地域（大台町）と結びついた活動を通じて、生徒の自主性・自律性・協調性などを育みながら個性と能力を伸ばすことを目標にしています。

令和21年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について

令和7年度(現中3) 地域の中学校卒業予定者数 1,879人(前年度比▲23)	令和8年度(現中2) 地域の中学校卒業予定者数 1,825人(前年度比▲54)	令和10年度(現小6) 地域の中学校卒業予定者数 1,754人(前年度比▲49)	令和11年度(現小5) 地域の中学校卒業予定者数 1,586人(前年度比▲168)	令和21年度 地域の令和5年度出生者数 1,065人
---	---	--	---	----------------------------------



松阪地域の県立高等学校における学びと配置のあり方に係る協議

令和4年度及び5年度での協議を次のとおり、とりまとめました。

1 子どもたちに育みたい資質・能力（○：R4① ◇：R5① ◎：R5②）

- 地域の小中高が連携することに加え、家庭・地域が一緒になって教育活動に取り組むことが、将来の松阪地域を担う子どもたちの育成につながっていく。
- 生徒が減少していく中であっても、この地域で学び就職する人が増えるよう、高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持するとともに、より実践的なキャリア教育に取り組んでもらいたい。
- 県外からの入学生が増加している昴学園高校の事例から考えると、県外から三重に来てもらい、三重で活躍できる人材を育てるという考え方もあるのではないかな。
- ◇ 生成AI技術の進歩など、急速に社会が変化する中で、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材をいかに育てていくかが課題となる。生徒が興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばせるようにしたい。
- ◇ 先が見えないコロナ禍を過ごした子どもたちだからこそ、自ら課題を見つけて向かっていくという「未来を切り拓く力」が大切である。
- ◇ コミュニケーション能力や課題解決能力に加え、答えを見つけるだけでなく、問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力も必要である。
- ◇ 多様性の時代には、一つの問題に対してさまざまな考え方ができるよう、多面的な学びが重要となる。また、未来を切り拓く力を育むためには、多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択できるようにすることも大切である。
- ◇ 子どもたちの視点を大切にして、子どもたち一人ひとりが自分のよさを伸ばすことができる環境をつくるのが大切である。
- ◇ 将来の進路や興味・関心より、偏差値で高校を選択する傾向も見られる。高校進学に向けた小中学校でのキャリア教育が大切である。
- ◇ 指示がないと意欲的に仕事ができない若手職員が年々増えている。このことから学生時代に子どもの自主性を伸ばしていくことが重要であると感じる。
- ◇ 不登校を経験した生徒の受け皿に加え、入学後に不登校にならないようなケアも大切である。
- ◎ 他地域の高校や県外の大学へ進学したとしても、将来この地域を愛し、この地域に戻ってきたいと思ってもらえるよう、小中高をとおし地域に根差した学びを大切にしたい。
- ◎ 求人を出してもなかなか応募がないという現状があり、地域における人材育成の視点に加え、労働条件を含めた魅力ある職場づくりも必要であると感じている。
- ◎ 中学生に、なぜ大学へ進学するのかを考えさせたり、地元の高校から地域の企業に就職することのよさを伝えたりしていく必要がある。小中高が連携して、こうした人生設計につながるキャリア教育に取り組むことが大切である。

- 将来の松阪地域を担う子どもたちの育成が大切
- ◇興味・関心のある分野を深く学び、得意分野をさらに伸ばすことが必要
- ◇夢や希望をかなえるため、自らの可能性を發揮し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」が必要
- ◇コミュニケーション能力や課題解決能力
- ◇問いを立てる能力や、あきらめずに困難に立ち向かう力
- ◇多様な学びの選択肢の中から、主体的に選択する力
- ◇高校進学に向けた、小中学校でのキャリア教育
- ◇学生時代における子どもの自主性
- ◎地域への愛着心を育むために、地域に根差した学びが必要

2 松阪地域の中学生の進路状況について（○：R4① ◇：R5① ◎：R5②）

- ◎ 松阪地域には多様な学科がバランスよく配置されているにもかかわらず、中学校卒業生の約3分の1が他地域の全日制高校へ進学している。その要因を分析し、各高校・学科の魅力を高め、それを発信することができれば、地元の高校へ進学する生徒の割合も増えるのではないか。
- ◎ 学校以外の習い事でできた友人と同じ学校に行きたいという理由で、他地域の高校へ進学する生徒も一定数いるようだ。保護者としても、子どもが希望するなら高校段階では地域を越えて交流させてやりたいという思いがあるのではないか。
- ◎ 松阪地域の高校卒業生の約6割が大学、短大、専門学校等へ進学していることや、自分が純粹に行きたい高校を記入していると思われる中学校3年生の7月段階の進路希望状況を勘案すると、松阪地域では普通科の定員が不足しており、その結果として私立高校や他地域の高校へ進学しているのではないか。

- ◎各高校・多様な学科の特色化・魅力化の向上とその情報発信により、地元高校への進学割合を高める
- ◎地域の中学生のニーズや現状を分析し、配置のあり方を検討する

3 再編を検討するうえで大切にしたいこと（○：R4① ◇：R5① ◎：R5②）

- 地域と連携した学びやICTを活用した学習などを取り入れながら、学校の活性化や魅力ある学校づくりにつなげてもらいたい。
- 地域の少子化や教育的ニーズの多様化が進む中、小学校から高校までの一貫した学びで子どもたちを育むことを意識しながら、松阪地域全体を見通したこれからの高校の学びと配置のあり方を協議していくことが大切である。
- 15年前と比べ、生徒数は減っているものの、不登校傾向にある生徒や発達に課題がある生徒、外国につながりを持つ生徒の割合が増えてきており、15年先を見据え、高校において求められる学びを検討する際には、これらの課題に柔軟に対応していくことが大切である。

- 松阪地域は、多様な学科や特色ある学びを持つ県立高校に加え、魅力ある私立高校があるなど、高校選択に関して恵まれた環境にある。地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要である。
- 高校魅力化の重要な要素でもある部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要である。
- ◇ 松阪地域は、私立高校や通信制課程を含め、普通科、専門学科、総合学科がバランスよく配置されている。今後、高校の配置を検討するにあたっては、近隣地域との流入・流出状況もふまえ、学びの選択肢が保たれるよう総合的に考えていきたい。
- ◇ 学級規模に関わらず、どの高校でも学校の特色に応じたきめ細かな教育が行われているが、生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましいと感じる。
- ◇ 学級規模が小さくなれば教員数が減り、多様な選択科目や部活動の維持が難しくなる。高校の学びや配置のあり方を考える上では、スケールメリットも重要な要素である。
- ◎ 多様な選択肢があったとしても、現実的な合格可能性、交通の利便性や通学費用などを考えて、隣接地域の高校を選択する生徒も多い。
- ◎ 大学等に進学するなら普通科でなければというのではなく、専門学科から大学等へ進学する生徒も多いことを、中学生にしっかりと周知していく必要がある。
- ◎ 目標に向かって粘り強く取り組む力や、他者と協働する力などの非認知能力を育成することが大切になっており、そういった学びの実現には一定の学校規模があるほうが望ましい。
- ◎ 一般に小規模校に存在するとされているメリットは、「体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる」といったものを除いて、概ね大規模校にも存在している。一方で、学級減による教員数の減少は、教科指導や部活動など学校運営全体に大きな影響を与えることとなる。
- ◎ 専門学科の学びの選択肢を維持するために、近年は主に普通科の定員を減じてきたが、これ以上松阪地域の県立高校の普通科の定員を減らすべきではない。普通科と専門学科・総合学科のバランス、公立と私立のバランスをしっかりとりながら、慎重に議論を進めてもらいたい。
- ◎ いつ頃までに、当協議会としての方向性をとりまとめる必要があるのか。
⇒ (事務局) 松阪地域では、令和11年度に大きな中学校卒業生数の減少が見込まれているので、統合を含めた再編を検討するのであれば、中学生の進路選択への影響等を勘案すると、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性を取りまとめる必要がある。

- 松阪地域全体を見通した高校の学びと配置のあり方を協議することが必要
- 地域の生徒が地域の高校へ進学するためには、多様な学科の維持や高校の魅力化が必要
- 高校での学びの選択肢をできるかぎり多く維持することが必要

- ◇近隣地域との流入・流出状況をふまえた、学びの選択肢の維持
- 部活動の活性化という視点から考えると、高校には一定規模が必要
- ◇生徒の社会性を育むには、経験上一定の学級規模があったほうが望ましい
- ◇高校の学びや配置のあり方を考える上では、教員数の確保や多様な選択科目や部活動の維持を視点としたスケールメリットも重要
- ◎教科指導や部活動などの学校運営については、学級減に伴う教員数の減少による影響も考慮する必要がある
- ◎学科のバランス、公立と私立のバランスを意識しながら、慎重に議論する必要がある
- ◎令和11年度の生徒減による学級減への対応については、遅くともその3年前の令和8年度までに方向性を出す必要がある

4 今後の協議に向けて（○：R4① ◇：R5① ◎：R5②）

- 15年先までに松阪地域で県立高校が10学級程度も減少するのであれば、現在地域にある専門学科の統廃合も検討していく必要がある。
- 15年先を見据えた高校の学びと配置のあり方を検討していく際には、変化の激しい時代における子どもたちの進路実現のため、これまでの価値観だけで考えるのではなく、子どもたちを軸にした教育課程の改革などについて議論していく必要がある。
- 高校配置のあり方を考えるにあたっては、各学校の学びの内容や特色、地域における様々な教育活動等を共有しながら協議を進めてはどうか。
- 松阪地域における過去の高校統合の事例をはじめ、今年度他地域の協議会で検討された統合や募集停止に関する意思決定の過程、及び学びの保障の方向性等を参考にしながら、協議を進めるのがよいのではないか。
- 学校の小規模化が進むと教員数が少なくなるため、生徒の幅広い学びの選択肢を確保することが難しくなる。協議会では教員定数や教育予算なども考慮しながら、高校配置のあり方について協議を進めていきたい。
- 地域から高校がなくなることは、地域の人々にとって大きな出来事である。15年先の生徒減の現実を受け止め、協議会でしっかり議論していく必要がある。
- 中学生や保護者の意見をアンケート調査で聞いてはどうか。その際、保護者の中でも様々な意見があるため、質問内容だけでなく世代別などに集計するなどの工夫も考えられる。子どもたちの思いを取り入れながら協議会の議論を進めていきたい。
- 専門学科の高校では資格取得も含めた専門教育を進めているが、その中で生徒たちが何に魅力を感じ、興味を持ったのかなどを把握したうえで高校の学びについて検討していきたい。
- 明和町は松阪市と伊勢市の間に位置しており、松阪市内だけでなく伊勢志摩地域への進学も多い。明和町内にも高校があれば小中高一貫した教育にも取り組みやすくなる。
- 大台町からは通学に時間はかかるものの、松阪地域において幅広く高校を選択することができる。この教育環境が維持できるよう議論を進めていきたい。

- 生徒数が減少する中、地域の高校へ進学する生徒を確保することが重要であり、そのためには高校側もより積極的な情報発信が必要である。
- この地域の豊かな学びを保障するために、統合ありきではなく、幅広い視野を持って協議を進めていきたい。
- ◇ 県や松阪地域がめざす15年先の社会の姿をふまえ、こういった人材の育成が必要なかの議論を進めたい。
- ◇ 子どもたちをメインとした議論を進めるためにも、アンケート調査が必要ではないか。
- ◇ 今後の議論の参考とするため、他地域の専門高校や協議会の状況が分かる資料があるとよい。
- ◇ 学びの環境をつくるのは大人の責任である。その際には、子どもに寄り添うことや、子どもの思いを大切にしながら議論を進めたい。
- ◇ 松阪地域外へ進学している現状がある中、この地域の子どもたちが、この地域で学べる状況が作られるよう、子どもたちの思いや願いが叶えられる地域の高校の魅力をさらに高めていきたい。
- ◇ 学科の配置については、今後進展が予想される業種や職種をふまえて議論を進めたい。
- ◇ ICTの発達等により働き方が多様化し、特別な支援を必要とする生徒の卒業後の受け皿が拡大していることをふまえ、特別支援学校だけでなく、高校においても、特性を持った生徒が自分の得意なことを伸ばすことのできる環境整備が必要である。
- ◇ 受験生は、希望よりも学力的に入りやすい高校を選択したり、早く進路を決めたりする傾向が見られる。また、コロナ禍で増えた不登校の生徒の多くが、県外の通信制高校に進学する状況も見られる。これらの状況もふまえ、地域に根差した教育を推進する観点から、高校の魅力化について考えていきたい。
- ◇ 松阪地域は他地域と比べて私立高校の定員の比率が高い。当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論すべきである。
- ◎ 中学生向けの進路説明会では、大学合格実績や就職先だけではなく、小規模校で独自に行っている特色ある教育や、どのような学びができるのかをもっとアピールするべきである。

- 地域にある専門学科の統廃合を検討していく必要がある
- 子どもを軸にした教育課程の改革などについての議論も必要
- 教員定数や教育予算なども考慮しながら協議する必要がある
- ◇中学生や保護者へのアンケート調査で結果を踏まえた議論が必要
- ◇子どもに寄り添い、子どもたちの思いや願いが叶えられるよう地域の高校の魅力を高める必要がある
- ◇当地域全体の高校のあり方を検討する際には、県立高校だけでなく、私立高校を含めて議論
- ◎小規模校で独自に行っている特色ある教育や学びをアピールすべき

地域の中中学生・保護者を対象としたアンケート調査の実施について

- 調査主体：松阪地域高等学校活性化推進協議会
- 調査形態
 - 中学生：一人一台端末でLoGoフォームを活用した生徒アンケートを実施
 - 保護者：市町教委から中学校、生徒を通じてアンケートの依頼を配付
Webによる回答か、紙媒体による回答
- 調査対象者
 - 中学生：松阪地域(松阪市・多気町・明和町・大台町)の
公立中学校に在籍する2年生(約1,700人)の生徒
 - 保護者：公立中学校に在籍する2年生(約1,700人)の保護者
公立小学校に在籍する5年生(約1,600人)の保護者
- 調査期間：令和6年9月頃

参考：令和4年度 伊勢志摩地域の中中学生・保護者を対象としたアンケート調査

- 調査主体：伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会
- 調査形態：
 - 中学生：一人一台端末のC B Tシステム利用による生徒アンケートを実施
 - 保護者：市町教委から中学校、生徒を通じて紙媒体アンケートを配付・回収
- 調査対象者
 - 中学生：伊勢志摩地域の公立中学2年生全員
(伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・南伊勢町・玉城町・大紀町)
 - 保護者：同上の保護者
- 調査期間：令和4年10月中旬～11月11日(金)
- 回答者数
 - 中学生：1,538人／1,702人(回収率90.4%)
 - 保護者：1,391人／1,692人(回収率82.2%)

高校や将来に関するアンケート

〇〇地域の中学 2 年生のみなさんへ

令和 6 年 9 月 〇〇地域高等学校活性化推進協議会

1 あなたは、どこに住んでいますか。次から 1 つ選んでください。

- ① 〇〇市 ② △△町 ③ ◇◇町 ④ ▲▲町

2 あなたが所属する学年は全体で何人ですか。次から 1 つ選んでください。

- ① 20 人以下 ② 21～40 人 ③ 41～80 人 ④ 81～120 人
⑤ 121～160 人 ⑥ 161～240 人 ⑦ 241 人以上

3 あなたは、中学校卒業後どのような進路を希望しますか。

- ① 高校等へ進学（設問 4 以降へ） ② 就職・その他（設問 10 へ）

4 あなたが高校を選ぶとき、重視する点は何ですか。6 つ以内で選んでください。

- ① 学びたい学科やコースがある
② 確かな学力を身につける授業が充実している
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる
⑤ 地域と連携した活動が充実している
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる
⑩ 通学のしやすさ・距離
⑪ 学校の雰囲気・イメージ
⑫ 施設・設備の充実
⑬ 進学・就職の実績
⑭ 自分の適性や能力
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見
⑯ 学費などの経費負担
⑰ その他（設問 5 の自由記述へ）

5 4 で「⑰ その他」を選んだ人は、重視する点を書いてください。**6 高校の学級は、1 学級 40 人を基本としています。あなたが進学するとしたら、1 学年あたりどのくらいの学級数（人数）の高校に入学したいですか。次から 1 つ選んでください。**

- ① 1 学級（40 人） ② 2 学級～3 学級（80～120 人）
③ 4 学級～6 学級（160～240 人） ④ 7 学級以上（280 人～）

7 あなたは高校に、どのような教育を期待しますか。5つ以内で選んでください。

- ① 自ら学び続ける力が身につく教育
- ② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育
- ③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育
- ④ 地域を題材として学ぶ教育
- ⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育
- ⑥ 人権に対する意識が高まる教育
- ⑦ 基本的な知識が身につく教育
- ⑧ ICTを積極的に活用する教育
- ⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育
- ⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育
- ⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
- ⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
- ⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育
- ⑭ その他（設問8の自由記述へ）

8 7で「⑭ その他」を選んだ人は、期待することを書いてください。

9 あなたが進学を希望する高校に通学する場合、通学（片道）にかけてもよいと思う時間は、どの程度まで可能ですか。次から1つ選んでください。

- ① 30分以内まで ② 60分以内まで ③ 90分以内まで
- ④ 120分以内まで ⑤ 121分以上

10 将来、あなたはどこで生活したり、働いたりしたいですか。次から1つ選んでください。

- ① 地元（現在住んでいる市町） ② 地元以外の〇〇地域 ③ 〇〇地域以外の三重県内
- ④ 県外 ⑤ 海外 ⑥ 一度は地元を離れても、いつかは戻りたい
- ⑦ まだ決まっていない、わからない

11 「高校や将来に関するアンケート」の内容に関して、考えや思いがあれば、書いてください。

〇〇地域の県立高校に関するアンケート

< 質 問 > あてはまる選択肢の番号に○を付けてください。

1 現在の居住地はどこですか。

- ① 〇〇市 ② △△町 ③ ◇◇町 ④ ▲▲町

2 あなたのお子さんは何年生ですか。2人以上いる場合は、上の学年でお答えください。

- ① 中学2年生 ② 小学5年生

3 お子さんが高校を選ぶときには、何を重視してもらいたいですか。6つ以内で選んでください。

- ① 学びたい学科やコースがあること
 ② 確かな学力を身につける授業が充実していること
 ③ 専門的な知識や技能、資格が習得できること
 ④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること
 ⑤ 地域と連携した活動が充実していること
 ⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実していること
 ⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われていること
 ⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会いがあること
 ⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できること
 ⑩ 通学のしやすさ・距離 ⑪ 学校の雰囲気・イメージ ⑫ 施設・設備の充実
 ⑬ 進学・就職の実績 ⑭ 自分の適性や能力
 ⑮ あなたや先生、友だち等の周囲の人の意見 ⑯ 学費などの経費負担
 ⑰ その他（設問4の自由記述へ）

4 3で「⑰ その他」を選んだ人は、重視してもらいたい点を書いてください。

5 高校の学級は、1学級40人を基本としています。お子さんが進学する高校の1学年あたりの学級数（人数）について、あなたの意見に最も近いものはどれですか。

- ① 1学級（40人） ② 2学級～3学級（80～120人）
 ③ 4学級～6学級（160～240人） ④ 7学級以上（280人～）

6 お子さんが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。5つ以内で選んでください。

- ① 自ら学び続ける力が身につく教育
 ② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育
 ③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育
 ④ 地域を題材として学ぶ教育 ⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育
 ⑥ 人権に対する意識が高まる教育 ⑦ 基本的な知識が身につく教育

- ⑧ ICTを積極的に活用する教育
- ⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育
- ⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育
- ⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
- ⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
- ⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育
- ⑭ その他（設問7の自由記述へ）

7 6で「⑭ その他」を選んだ人は、期待することを書いてください。

8 現在〇校合計で1学年あたり〇学級規模ある〇〇地域の県立高校は、15年先の令和21年度には〇～〇学級規模になると見込まれます。今後の〇〇地域の県立高校の配置のあり方について、あなたの意見に最も近いものはどれですか。次の①～③から1つ選んでください。

- ① 各校の小規模化が進むこととなるが、統合は避けるべき
- ② 大規模・中規模の高校を配置するため、一定の統合は避けられない
- ③ 大規模・中規模の高校をできる限り配置するため、積極的に統合を進めるべき

9 設問8の①～③を選んだ理由や、今後の〇〇地域の県立高校の配置のあり方に関してのご意見をお聞かせください。

10 お子さんが進学を希望する高校に通学するとしたら、通学（片道）にかけてもよいと思う時間は、どの程度までなら可能ですか。次から1つ選んでください。

- ① 30分以内まで
- ② 60分以内まで
- ③ 90分以内まで
- ④ 120分以内まで
- ⑤ 121分以上

11 将来（中学・高校・大学等の学校を卒業後）、お子さんはどこで生活や働いてほしいと考えますか。次から1つ選んでください。

- ① 地元（現在住んでいる市町）
- ② 地元以外の〇〇地域
- ③ 〇〇地域以外の三重県内
- ④ 県外
- ⑤ 海外
- ⑥ 一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい
- ⑦ 特に考えはない

12 今後の〇〇地域の県立高校の学びのあり方について、ご意見があればお聞かせください。

（事務担当） 三重県教育委員会事務局 教育政策課 059-224-2951（平日9:00～17:00）
ご協力ありがとうございました。

まつさかちいき けんりつこうこう かん あんけーと
松阪地域の県立高校に関するアンケート

まつさかちいき ちゅうがっこう ねんせい しょうがっこう ねんせい ほごしゃ
松阪地域の中学校2年生・小学校5年生の保護者のみなさんへ

れいわ ねん がつ まつさかちいきこうとうがっこうかつせいかさういしんきょうぎかい
令和6年9月 松阪地域高等学校活性化推進協議会

ほんきょうぎかい とうちいき けんりつこうこう かつせいいか きょうぎ なか しんがく ひか せいと
本協議会では、当地域の県立高校の活性化について協議しており、その中で進学を控える生徒・
ほごしゃ かた いけん さんこう きょうぎ すす かんが い か しりょう さんしょう
保護者の方の意見を参考に協議を進めたいと考えています。つきましては、以下の資料を参照のう
え あんけーと きょうりよく ねが とうちいき ちゅうがく ねんせい たいしょう
え、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。（当地域の中学2年生を対象に、
べつと あんけーと じっし
別途、アンケートを実施しています。）

しりょう
【資料】

か でじたる か しやかい おお へんか しょうし こうれいか しんこう きょういくてきに ーず
○グローバル化やデジタル化などの社会の大きな変化、少子・高齢化のさらなる進行、教育的ニーズの
たようか すす なか れいわ ねん がつ さくてい けんりつこうとうがっこうかつせいいかけいかく こ
多様化が進む中、令和4年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」では、これからの子どもたちに
とって魅力ある県立高等学校のあり方や活性化について検討し、実現していくこととしています。

なか ねんさき ちゅうがっこうそつぎょうしや げんしょう じょうきょうとう じだい もと
○その中で、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求めら
れる学びを提供していくには、現在の県立高校の配置を続けていくことは難しい状況であるため、
まな ていきょう げんざい けんりつこうこう はいち つづ むすか じょうきょう
各地域の活性化協議会において、高等学校の学びと配置のあり方についての検討を丁寧に進めるとし
ており、松阪地域においては、本協議会で検討を進めています。

れいわ ねん ど まつさかちいき ぜんにちせいけんりつこうこう ねんせい そうがっきゅうすう ていいん こう がっきゅう にん
○令和6年度の松阪地域の全日制県立高校1年生の総学級数（定員）は、6校で25学級1,000人とな
っています。

- ・松 阪（7学級280人）
- ・松阪工業（5学級200人）
- ・松阪商業（4学級160人）
- ・飯 南（2学級80人）
- ・相 可（5学級200人）
- ・昴学 園（2学級80人）

れいわ ねん ど ねん ど ちゅうがっこうそつぎょうしやすう よそく ちいき しゅつしょうすう しんろじょうきょう た
○令和6年度から21年度までの中学校卒業者数の予測や地域での出生数をもとに、進路状況や他
ちいき りゅうしゅつにゆう こうりよ がっきゅうすう よそく げんざい がっきゅう ねんさき れいわ ねん ど
地域との流入などを考慮して学級数を予測すると、現在の25学級から15年先の令和21年度に
はおおよそ11～14学級と11～14学級減少することが見込まれます。

	れいわ ねん がつ 令和6年3月	れいわ ねん がつ 令和11年3月	れいわ ねん がつ 令和21年3月
ちゅうがっこうそつぎょうしやすう 中学校卒業者数	1,856人	1,586人	1,065人
そうがっきゅうすう 総学級数	がっきゅう 25学級	がっきゅうていど 20学級程度	がっきゅうていど 11～14学級程度

ちゅうがっこうそつぎょうしやすう れいわ ねん よそくち れいわ ねん ちいき しゅつしょうすう
※中学校卒業者数：令和11年は予測値、令和21年は地域の出生数

(参 考) これまでの協議会の概要や配付資料については、下記のHPをご覧ください。

R4 第1回協議会 (R5. 3. 15)



R5 第1回協議会 (R5. 8. 23)



R5 第2回協議会 (R6. 2. 19)



アンケート回答方法等について記載